



戦略的フォーカスと優れた実行力 2017年度年間実績

2018年5月14日

社長CEO

クリストフ・ウェバー

チーフ メディカル&
サイエンティフィック オフィサー

アンドリュー・ブランフ

チーフ フィナンシャル オフィサー

コスタ・サルウコス

ジャパン ファーマ ビジネスユニット プレジデント

岩崎 真人

重要な注意事項

留意事項

本通知において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「武田薬品」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。いかなる株式も本プレゼンテーションによって公開されておらず、本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

特定されていない限り、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明（シナジーの予測の声明を含みます。）も、いかなる期間における業績予測又はその見積もりを意図するものではなく、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明も、現在又は将来の会計年度における武田薬品の収益又は1株あたりの収益が過去に公表された武田薬品の1株あたりの収益と必ずしも合致し、又はそれを超越することを意味するものではありません。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社 (we, us及びour)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあります。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあります。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見通し、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。特に、本プレゼンテーションには、2018年事業年度における売上収益、中核利益、営業利益、税引前純利益、親会社の所有者に帰属する純利益、基本的1株当たり利益、研究開発費、無形資産償却費及び減損、並びに収益/費用に関する情報を含む、武田薬品の財務及び事業業績に関する予想及び経営予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「打算する (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語又は同様の用語若しくはその否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではないです。この書類における将来見通し情報は、現在当社が入手可能な情報に鑑みて行った当社の現在の前提及び理念に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証をするものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本、米国及び世界中の一般的な経済条件を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、為替変動、市場で販売された製品又は製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI（買収後の統合プロセス）が含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容とは、大きく異なる可能性があります。当社又は当社の役員は、この将来見通し情報において示された予想が結果的に正しいことを何ら保証するものではなく、実際の業績又は経営結果は予想と大きく異なることがあり得ます。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の業績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見積もりではありません。

医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

2018年度の武田薬品の業績予想について

武田薬品は現在、Shire plcに関するオファー期間（英国のCity Code on Takeovers and Mergers（以下、「コード」）において定義される期間をいいます。）にあります。コード第28条に基づき、武田薬品による2018年度のガイダンスに関する見解（2018年度における売上収益、Core Earnings、営業利益、税引前当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益、EPS、研究開発費、無形資産償却費及び減損損失、収益/費用、並びに実質的な売上収益、実質的なCore Earnings及び実質的なCore EPSに関する予想情報を含みます。）は、2018年度における業績予想（以下「武田薬品業績予想」）を構成します。

武田薬品業績予想に関する追加情報及び取締役による当該業績予想が有効なものであり、上掲の前提及び当社の会計方針に基づき適切に作成されている旨の確認につきましては、2018年5月14日付けの武田薬品2018年3月期決算短信をご参照ください。

Core Earnings及びCore EPSの定義並びに武田薬品が実質的な成長を算出した方法についての説明は、第40頁を参照ください。



重要な注意事項（TiGenix社株式等の公開買付けについて）

今回の決算説明会は、情報開示目的であり、TiGenix社のあらゆる有価証券の買付けの申込みや売却の勧誘、推奨を意味するものではありません。TiGenix社の有価証券を保有する皆様方におかれては、www.sec.govにて公開される申込み書類をお読みいただけますようお願いいたします。今回の公開買付けは、(i) ベルギーの関係法令に基づく、TiGenix社の全ての発行済普通株式（以下「普通株式」といいます。）と新株予約権証券に対する買付け申込み、および(ii) 米国の関係法令に基づく、Deutsche Bank Trust Company Americasを預託機関として発行されたTiGenix社の米国預託証券（以下「ADSs」といいます。）の保有者様（居住地は問いません）および米国居住中の普通株式の保有者様への買付け申込みの2種類の申し込みにより実施されます（以下「米国における公開買付け」といいます。）。

米国における公開買付けは、買付け申込みおよびこれに関する資料に基づいて行われています。武田薬品は、米国における公開買付けに関して、2018年4月30日にSchedule TOに添付された公開買付説明書をSECに提出いたしました（なお、当該説明書は適宜変更される場合があります）。TiGenix社は、米国における公開買付けに関して、2018年4月30日にSchedule 14D-9に添付された勧誘書類・推奨書面をSECに提出いたしました（なお、当該書面は適宜変更される場合があります）。

米国預託証券保有者の皆様および株主の皆様が、米国における公開買付けへの参加を希望される場合には、米国における公開買付けに関する重要な情報が記載されていますので、武田薬品からSECに提出された関連書類を熟読いただきますようお願いいたします。同様に、TiGenix社からSECに提出されたSchedule 14D-9に添付された勧誘書類・推奨書面も、重要な情報が含まれますので、熟読いただきますようお願いいたします。武田薬品とTiGenix社がSECに提出したこれらの書類およびその他の書類の写しは、SECのウェブサイト（www.sec.gov）にて無料で入手可能です。投資家の皆様および有価証券を保有する皆様方は、TiGenix社がSECに提出したSchedule 14D-9に添付された勧誘書類・推奨書面およびその他の書類の写しをwww.tigenix.comで無料で入手することも可能です。Schedule TO（買付け申込みおよびこれに関する資料を含む）とSchedule 14D-9（勧誘書類・推奨書面を含む）は、本公開買付けの情報エージェントからも無料で入手可能です。TiGenix社は、公開買付けの申し込み、公開買付け申し込みに関するその他の関連文書および勧誘書類・推奨書面に加えて、報告書その他の情報もSECに提出します。SEC Public Reference Room（100 F Street, N.E., Washington, D.C. 20549）にて、TiGenix社がSECに提出した報告書その他の情報をコピーおよび閲覧することができます。Public Reference Roomに関する詳細な情報につきましては、SEC（1-800-SEC-0330）にご連絡ください。TiGenix社のSECへの提出資料は、企業文書検索サービスやSECのウェブサイト（www.sec.gov）でも一般に提供されています。

今回の決算説明会は、公開買付けに関するベルギー法（2007年4月1日）第31条および第33条に該当する情報開示となります。

目論見書および意見表明書

目論見書および意見表明書は、2018年4月24日にベルギー金融サービス市場局にて承認されています。目論見書（受諾書および意見表明書を含みます）は電話（+32 (0)2 433 41 13）にて無料で入手可能です。また、目論見書（受諾書および意見表明書を含む）の電子版も、BNP Paribas Fortis SA/NV（www.bnpparibasfortis.be/epargneretplacer（フランス語・英語）およびwww.bnpparibasfortis.be/sparenenbeleggen（オランダ語・英語）、武田薬品（https://www.takeda.com/newsroom）、およびTiGenix社（http://tigenix.com/takeda-takeover-bid/）の各ウェブサイトでも入手可能です。



変革がもたらす優れた成果

・ 戦略的な優先事項にフォーカス

Grow
Portfolio

Strengthen
Pipeline

Boost
Profitability

・ 2017年度実績は優れた実行力を反映

財務ベース: 売上収益 +2.2%、営業利益 +55.1%、EPS +62.7%

実質ベース: 売上収益 +5.5%、Core Earnings +40.2%、Core EPS +44.8%
Core Earningsの対売上収益比率の向上 +420bps

・ 売上収益比率を毎年100-200bps向上させることにコミット

・ 2018年度は力強い実質的なビジネスがベルケイドの減少影響を吸収

・ タケダの価値観に基づく持続的な成長



変革を後押しするのはタケダの価値観や企業文化

タケダイズムにもとづく価値観

- 患者さん中心→社会との信頼関係構築→レピュテーション向上→事業の発展

グローバルかつ機動的にイノベーションを追求

- グローバルな組織と機能の構築
- 患者さん中心主義と現場力の強化
- 研究開発の生産性向上に向けた再編成：重点疾患領域へのフォーカス、外部提携、業績文化

世界レベルのガバナンスと多様性あるリーダーシップ

- 取締役会の過半数が社外取締役の監査等委員会設置会社
- 多様性と経験に富むタケダ・エグゼクティブ・チーム
- 包括的な人材育成プログラム

Grow Portfolio

事業ポートフォリオの成長

Strengthen Pipeline

研究開発パイプラインの強化

Boost Profitability

利益率の向上



2017年度実績は優れた実行力を反映

Grow Portfolio

- 実質的な売上収益は+5.5%、成長ドライバー+12.8%が牽引
- 主力製品の力強い実績：エンティビオ+35.9%、ニンラー口+54.2%
- アリアド社の統合完了、Alunbrigとアイクルシグの堅実な実績
- 消化器系疾患領域のリーダーシップ強化に向けたタイジェニクス社の買収意思表示およびAlofiselの欧州における承認取得

Strengthen Pipeline

- 研究開発の生産性向上に向けた再編成
- 2017年4月以降、17の新規候補物質がステージアップ
- 2017年度はバイオテック企業/アカデミアと56の新たな提携
- 湘南アイパークがオープンでイノベティブなエコシステムの醸成を目指し稼動

Boost Profitability

- 業界有数の売上・利益の成長率によりガイダンスを上回る
- 実質的なCEは+40.2%、対売上収益比率は+420bps
- EPS（財務ベース）+62.7%、実質的なCore EPS +44.8%
- ノン・コア資産の売却により1,644億円のキャッシュを創出



業界有数の成長率によりガイダンスを上回る

	2017年度 マネジメントガイダンス（成長率 %）		実績	
	2017年5月	2018年2月		
実質的な売上収益	1桁台前半	→ 1桁台半ば	+5.5%	✓
実質的な Core Earnings	10%台半ばから後半	→ 20%台後半	+40.2%	✓
実質的なCore EPS	10%台前半から半ば	→ 20%台半ば	+44.8%	✓



成長ドライバーは力強い+12.8%の売上成長

2017年度 実質的な売上収益: 1兆7,111億円 +5.5%

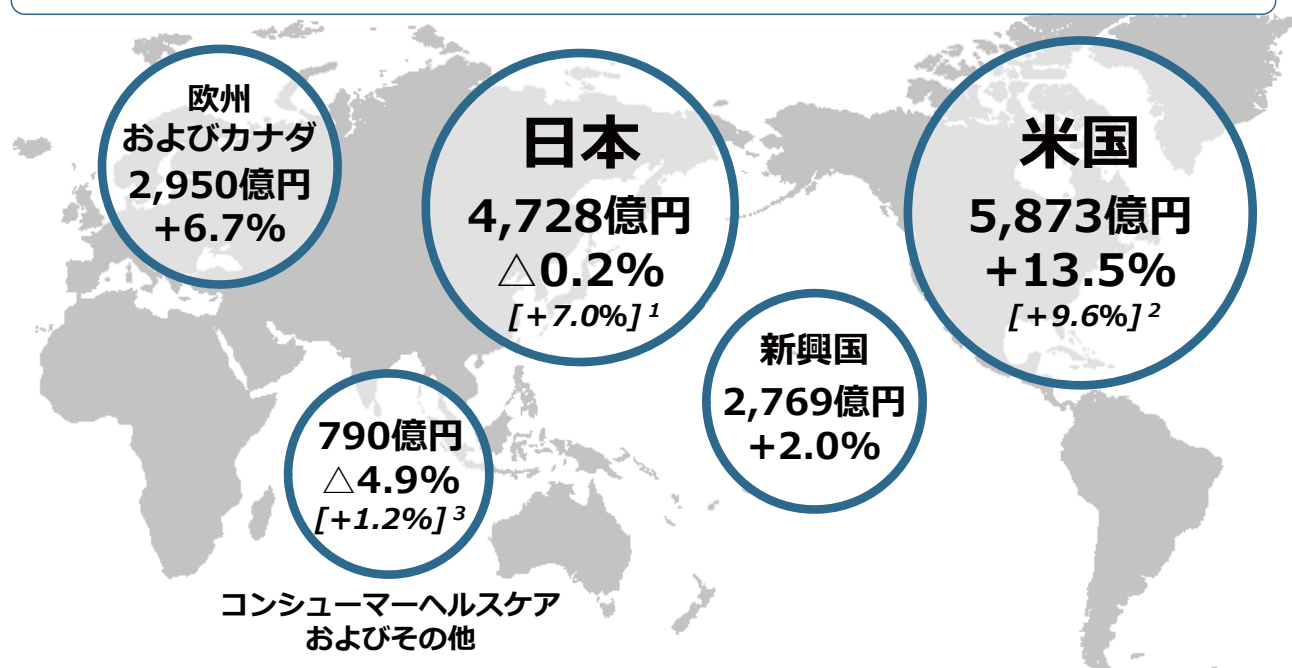
	2017年度 実質的な売上収益の成長	
	成長ドライバー	成長率
成長ドライバー	消化器系疾患	+21.6%
	オンコロジー	+12.1%
	ニューロサイエンス	+22.6%
	新興国事業	+2.0%
	合計	+12.8%

タケダ連結売上に占める成長ドライバーの比率：62%



米国の2桁台の成長が牽引した各地域の実質的な売上収益

2017年度 実質的な売上収益: 1兆7,111億円 +5.5%



9

1. 返還したポートフォリオ（ブレベナー、ベネフィクス）を除いた場合は+7.0%
2. アリアド社のポートフォリオ（Alunbrig、アイクルシグ）を除いた場合は+9.6%
3. 返還したポートフォリオ（ピオフェルミン（OTC製品））を除いた場合は+1.2%

武田薬品工業株式会社



2018年度はベルケイドの減少影響があるものの、 売上・利益の成長モメンタムを維持

	2018年度 マネジメントガイダンス (成長率 %)
実質的な売上収益	1桁台前半
実質的なCore Earnings	1桁台後半
実質的なCore EPS	10%台前半
1株当たり年間配当金	180円 (如何なる事業活動の可能性に関わらず)



中期的な優先事項 : Grow Portfolio

**Grow
Portfolio**

**Strengthen
Pipeline**

**Boost
Profitability**

中期的な優先事項

- 主力の成長製品に注力
- スペシャリティ事業の実力強化
- 資産売却および取得の機会追求



主力製品の力強い売上実績

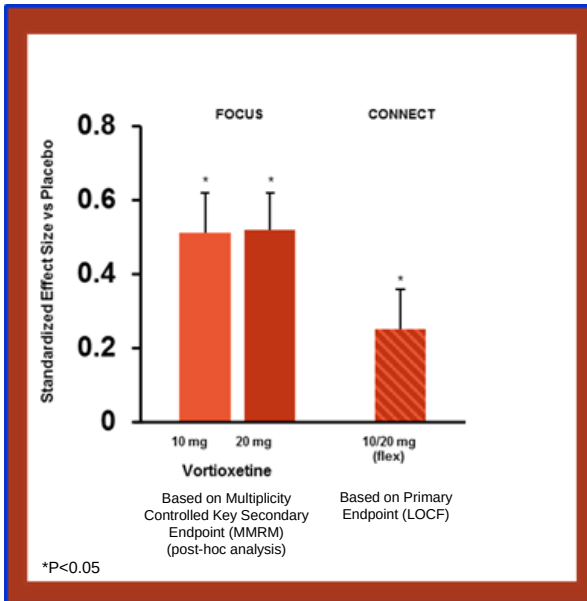
**2017年度
実質的な売上収益**

(億円) (対前年度)

GI		1,966	+35.9%	• 2019年度中にMAT（移動通年合計）での売上高が30億米ドルに達する見通し • 今後さらなるデータの構築により、炎症性腸疾患におけるリーダーシップポジションを確立（VICTORYコンソーシアム）
		551	+61.7%	• 日本では2018年度の薬価改定影響をボリュームの増加によりオフセット • 中国やブラジルを始め新興国にて新薬承認申請を提出
Oncology		457	+54.2%	• 55カ国以上で承認取得済み、引き続きグローバル展開を実施 • 多発性骨髄腫フロントライン試験において、初回の中間解析を実施、IDMCの推奨により、次の中間解析まで盲検下で試験を継続 • 維持療法におけるデータが2018年度H1に得られる予定
		377	+23.2%	• 70カ国以上で承認取得済み、AETHERA試験結果が欧州での成長を牽引 • 欧州で、CTCLの承認取得、ホジキンリンパ腫フロントライン適応申請済み
		28	2017年5月 上市	• 米国上市後、順調な立ち上がり、欧州での上市準備 • フロントライン適応のデータが2018年度H1に得られる予定
Neuro-science		478	+47.9%	• 有効性および認容性のプロファイルにより、Trintellixへ早期に切り替え • 急性大うつ病における認知機能の症状の一つである処理速度の低下に改善効果があることを示すデータが米国添付文書に追記



TRINTELLIX®は、認知機能の症状の一つである処理速度の低下に対する改善効果データを添付文書に追記することについて米国食品医薬品局が承認した初めてのうつ病治療剤



- FOCUS試験¹およびCONNECT試験²は、神経心理検査であるDigit Symbol Substitution Test (DSST) を用いて、急性うつ病の成人患者における認知機能に対するTRINTELLIXの効果を評価するために実施
- 両試験において、TRINTELLIX投与群は、プラセボ投与群と比較して、DSSTによる測定項目において統計学的に有意な改善効果を示した

1. FOCUS: McIntyre RS, Lophaven S, Olsen CK. Int J Neuropsychopharmacol. 2014;17(10):1557-1567.
2. CONNECT: Mahableshwarkar AR, Zajecka J, Jacobson W, Chen Y, Keefe RS. Neuropsychopharmacology. 2015;40(8):2025-2037.



欧州でのAlofisel®の上市準備を開始 肛門複雑瘻孔に対する革新的な幹細胞治療

2018年3月に欧州委員会（EC）より承認を取得¹

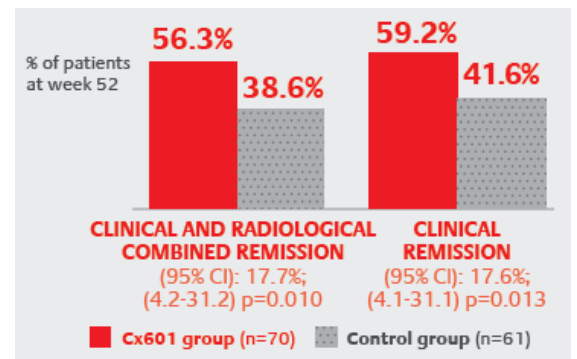
- 欧州にて中央審査方式で初めて承認された同種異系脂肪由来幹細胞療法
- 2018年中に欧州の国で販売を開始
- 消化器疾患領域における開発後期パイプラインおよびリーダーシップの強化を目指し、タイジェニクス社の買収手続きを開始
 - 公開買付けを4月に開始、タイジェニクス社の発行済み株式すべてを買付け予定-7月に買収完了予定

肛門複雑瘻孔の医療ニーズは非常に高い

- クローン病の深刻な合併症であり、欧州における推定110万人のクローン病患者のうち、約5%の患者で発症
- 激痛や腫れ、感染症、失禁を伴う
- 薬物療法はほとんどない
- 通常侵襲的な外科的処置が繰り返し必要となり、永続的な失禁に至ることがある

対照群と比較し52週時点の複合寛解が有意に優れていた²

無作為化後、標準治療に加え、Alofiselもしくはプラセボ(生理食塩水)を単回投与



Cx601 = Alofisel (darvadstrocel)
Cx601投与群の20.4%、対照薬投与群の26.5%の患者が、治療に起因する副作用を経験。詳細は公表文献をご参照下さい。²



中期的な優先事項 : Strengthen Pipeline

Grow
Portfolio

Strengthen
Pipeline

Boost
Profitability

中期的な優先事項

- 疾患領域の専門性をいかした革新的研究開発課題の推進
- 社内育成と外部提携を通じた研究開発力の強化
- 研究開発のオペレーションの実効性と文化の強化



2017年度の重要な研究開発マイルストーン

疾患領域	開発品	予定されるイベント		
オンコロジー (がん)	Ninlaro	再発・難治性の多発性骨髄腫 全生存期間 (OS) データ中間解析結果(H2)	✓ Q3	中間解析を実施、IDMCの推奨に基づき二重盲検下で最終解析まで試験を継続
	Adcetris	再発性皮膚T細胞性リンパ腫 欧州申請 (H1)	✓	
		再発性皮膚T細胞性リンパ腫 欧州承認 (H2)	✓ Q3	
		ホジキンリンパ腫 (フロントライン適応) 欧州申請 (H2)	✓ Q3	
	Alunbrig	クリゾチニブ投与後の未分化リンパ腫キナーゼ遺伝子転座陽性(ALK陽性)の転移性非小細胞肺癌 米国承認 (H1)	✓	
消化器系疾患	Pevonedistat	高リスク骨髄異形成症候群/慢性骨髄単球性白血病/低プラスト急性骨髄性白血病 Ph-2 中間解析結果 (H1)	✓	
		高リスク骨髄異形成症候群/慢性骨髄単球性白血病/低プラスト急性骨髄性白血病 ビボタル Ph-3試験開始 (2017年12月18日に患者登録開始)	✓ Q3	
	Entyvio	潰瘍性大腸炎 日本Ph-3試験の結果判明 (H2)	✓	
	Cx601(Alofisel)	クローン病に伴う肛門複雑瘻孔 欧州承認 (H2)	✓ Q4	
	TAK-954	経腸栄養不耐性 Ph-2b試験開始 (H2)	➡	FY2018 H1
ニューロサイエンス (神経精神疾患)	Trintellix	処理速度に関するデータのラベルへの追記	✓	2018年5月2日
	Rasagiline	パーキンソン病 日本承認	✓ Q4	
ワクチン	TAK-003	デング熱ワクチン Ph-3TIDES試験の被験者組み入れ完了 (H1)	✓	
	TAK-214	ノロウイルスワクチン 成人を対象としたPh-2b試験の結果判明 (H2)	➡	FY2018 H1
	TAK-426	ジカウイルスワクチンのPh-1試験開始 (H2)	✓ Q3	



パイプライン:第3四半期決算開示以降の進捗

	Phase 1	Phase 2	Phase 3/申請	承認*
オンコロジー (がん)	TAK-079 Anti-CD38 mAb Refractory MM TAK-202 CCR2 antagonist Solid Tumors TAK-580 pan-RAF kinase Solid Tumors TAK-243 UAE inhibitor Solid Tumors	Sapanisertib* Breast cancer, renal cancer	relugolix Myovant GNRH antagonist Prostate Cancer (JP)	Niraparib Tesaro PARP 1/2 inhibitor Multiple cancer (JP)
消化器系疾患	TIMP-Gliadin Cour Imm. Tol. Induction Celiac Disease			ALOFISEL Tigenix mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD
ニューロサイエンス (神経精神疾患)	TAK-071 M1PAM AD MEDI-1341 Astrazeneca Alpha-syn mAb Parkinson's Disease	TAK-058*** 5-HT3 antagonist CIAS		AZILECT® Teva MAOA inhibitor Parkinson's (JP)
ワクチン				カテゴリーの変更: その他からオンコロジーへ 外部への導出によるパリュークリエーション 臨床開発の中止 新たな効能の検討 第3四半期決算開示以降のステージアップ/承認取得 開発課題として新たにエントリー
その他	TAK-020 BTK inhibitor RA	namilumab Amgen GM-CSF RA TAK-272** SCOHIA Pharma direct renin inhibitor Diabetic Nephropathy		

* Sapanisertib の乳がんと腎がんの試験は中止、子宮内膜がんの効能については開発を継続
 ** 2017年にSCOHIA社へ導出
 *** 2017年にパートナーに導出

武田薬品工業株式会社

17



2017年度は17の新規候補物質のステージアップがあり、著しく進捗（前年度のステージアップ数は5）

	Phase 1	Phase 2	Phase 3/申請	承認*					
オンコロジー (がん)	TAK-573 Teva Anti-CD38 attenukine Refractory MM	XMT-1522 Mersana Therapeutics HER2 dolaflexin ADC HER2+ Solid Tumors	TAK-788 EGFR/HER2 inhibitor NSCLC	sapanisertib mTORC 1/2 inhibitor Endometrial Cancer	pevonedistat NAE inhibitor HR-MDS/CMML/LB AML	relugolix Myovant GNRH antagonist Prostate Cancer (JP)	*新規のまたは追加の効能取得を目的とした開発 NINLARO® Proteasome inhibitor MM, R/R (EM), R/R Amyloidosis, Front Line MM, R/R Myeloma doublet regimen, Maintenance MM post-SCT Maintenance MM w/o SCT	ADCETRIS® Seattle Genetics CD30 ADC FL HL, FL MTCL, CTCL	
	TAK-079 Anti-CD38 mAb Refractory MM		TAK-659 SYK inhibitor DLBCL	TAK-931 CDC7 inhibitor Solid Tumors		ALUNBRIG® (brigatinib) ALK inhibitor ALK+NSCLC (EU), FL ALK+ NSCLC	ICLUSIG® BCR-ABL inhibitor Imatinib resistant Chronic Phase CML Second-Line Chronic Phase CML, Ph+ ALL	Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor RCC, HCC (JP)	Niraparib Tesarro PARP 1/2 inhibitor Multiple cancer (JP)
消化器系疾患	TIMP-Gliadin Cour Imm. Tol. Induction Celiac Disease		TAK-906 D2/D3R Antagonist Gastroparesis	TAK-954 Theravance Biopharma 5-HT4R agonist Enteral Feeding Intolerance			ENTYVIO® α4β7 mAb UC/CD (EM), UC (JP), CD (JP), adalimumab H2H Sub-Q UC, Sub-Q CD, GVHD Prophylaxis, GVHD-SR	Vonoprazan PCAB ARD (Asia), NERD (JP)	
						AMITIZA® Sucampo Chloride channel activator Pediatric constipation, New formulation	ALOFISEL TiGenix mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD		
ニューロサイエンス (神経精神疾患)	TAK-653 AMPA potentiator TRD	TAK-418 LSD1 inhibitor Kabuki Syndrome	TAK-935 Ovid Therapeutics CH24H inhibitor Rare Pediatric Epilepsies	TAK-831 DAAO inhibitor SCZ, Ataxia			TRINTELLIX™ Lundbeck Multimodal anti-depressant Speed of processing data in label MDD (JP)		
	MEDI-1341 AstraZeneca Alpha-syn mAb Parkinson's Disease	TAK-925 Orexin 2R agonist Narcolepsy	TAK-041 GPR139 agonist CIAS neg. symptoms						
ワクチン	TAK-021 EV71 Vaccine	TAK-426 BARDA Zika Vaccine	TAK-195 Gates Foundation Inactivated Polio Vaccine	TAK-214 Norovirus Vaccine	TAK-003 Dengue Vaccine				
									▶ 2017年度のステージアップ(2017年4月1日以降)



アンメットニーズが高いオーファン疾患を対象とした品目を重点疾患領域にわたり開発中

	Phase 1	Phase 2	Phase 3/申請	承認*
オンコロジー (がん)	TAK-573 Teva Anti-CD38 attenuating Refractory MM TAK-079 Anti-CD38 mAb Refractory MM	XMT-1522 Mersana Therapeutics HER2 dolaflaxin ADC HER2+ Solid Tumors TAK-788 EGFR/HER2 inhibitor NSCLC sapanisertib mTORC1/2 inhibitor Endometrial Cancer TAK-659¹ SYK inhibitor DLBCL TAK-931 CDC7 inhibitor Solid Tumors	pevonedistat¹ NAE inhibitor HR-MDS/CMML/LB AML relugolix Myovant GnRH antagonist Prostate Cancer (JP)	NINLARO¹ Frontline inhibitor MM R/R (EM), R/R Amyloidosis, Front Line MM, R/R Myeloma doublet regimen, Maintenance MM post-SCT Maintenance MM relapse/SCT ADCETRIS¹ Seattle Genetics CD30 ADC FL HL, FL MTCL, CTCL ALUNBRIG¹ (brigatinib) ALK inhibitor ALK+NSCLC (EU), FL ALK+ NSCLC Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor RCC, HCC (JP) ICLUSIG¹ BCR-ABL inhibitor Imatinib resistant Chronic Phase CML Second-Line Chronic Phase CML, Ph+ ALL Niraparib¹ Tesaro PARP 1/2 inhibitor Multiple cancer (JP)
消化器系疾患	TIMP-Gliadin Cour Imm. Tol. Induction Celiac Disease	TAK-906 D2/D3R Antagonist Gastroparesis TAK-954 Theravance Biopharma 5-HT4R agonist Enteral Feeding Intolerance		ENTYVIO¹ Roche UC/CD (EM), UC (JP), CD (JP), adalimumab H2H Sub-Q UC, Sub-Q CD, GvHD Prophylaxis, GvHD SR Vonoprazan PCAB ARD (Asia), NERD (JP) AMITIZA¹ Sucampo Chloride channel activator Pediatric constipation, New formulation ALOFISEL¹ Tigenix mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD
ニューロサイエンス (神経精神疾患)	TAK-653 AMPA potentiator TRD MEDI-1341 AstraZeneca Alpha-syn mAb Parkinson's Disease	TAK-418 LSD1 inhibitor Kabuki Syndrome TAK-925¹ Orexin 2R agonist Narcolepsy TAK-041 GPR139 agonist CIAS neg. symptoms	TAK-935¹ Ovid Therapeutics CH24H inhibitor Rare Pediatric Epilepsies TAK-831¹ DAAO Inhibitor SCZ, Ataxia	TRINTELLIX¹ Lundbeck Multimodal anti-depressant Cognition data in label, MDD (JP)
ワクチン	TAK-021 EV71 Vaccine TAK-426 BARDA Zika Vaccine	TAK-195 Gates Foundation Inactivated Polio Vaccine TAK-214 Norovirus Vaccine	TAK-003 Dengue Vaccine	▶ 2017年度のステージアップ(2017年4月1日以降)

□ いずれかの開発地域もしくは効能で希少疾病医薬品指定を受けたもの



2017年度はイノベーションネットワークをさらに強化、56件の新たなコラボレーション

疾患領域	機能
オンコロジー (がん) 7 件の新たなパートナーシップ 	5 製品の導出
消化器系疾患 12 件の新たなパートナーシップ 	8 つの新会社設立 (アントレプレナーベンチャープログラム)
ニューロサイエンス (神経精神疾患) 5 件の新たなパートナーシップ 	プラットフォーム 6 件の新たなパートナーシップ
	2 件の希少疾患への取り組み
	2 件の新たなアカデミアとのアライアンス
	1 つの新たな投資
	外部導出を通じたバリュー クリエーション TAKcelerator 希少疾患 エンジン アカデミアとの アライアンス 武田ベンチャー

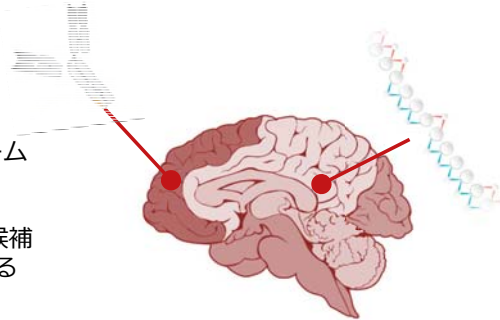


ニューロサイエンスにおける最近の2件のパートナーシップを通じ特定の患者層向けのテクノロジーにアクセス

これらのコラボレーションは、遺伝的要因を有する神経疾患を標的とする新しいモダリティへのアクセスを可能とし、当社のニューロサイエンス戦略をサポート

DENALI
THERAPEUTICS

WAVE
LIFE SCIENCES



- 脳への移行性を高めるAntibody Transport Vehicleプラットフォーム技術
- 最大で3つの神経変性疾患治療薬候補についての開発および販売に関する提携契約を締結
- 各治療薬候補の開発候補品は、アルツハイマー病やその他の神経変性疾患に関する遺伝学的に検証されたターゲットを対象

- 従来では治療困難な疾患の治療を可能にする**核酸治療薬**開発のための化学的プラットフォーム
- Wave社とのパートナーシップには**ハンチントン病：HD（現在Ph-1b / 2aの2つのプログラムを有する）**、筋萎縮性側索硬化症:ALS、運動失調といった神経学的疾患をターゲットとする3つのプログラムに対するオプション権や、中枢神経系疾患の他の複数のターゲットを対象とした研究・開発・販売に関する独占的ライセンスを含む



2018年度に想定されている重要な研究開発マイルストーン

疾患領域	開発品	予定されるイベント
オンコロジー (がん)	Adcetris	ホジキンリンパ腫（フロントライン適応）欧州承認（H2）
	Alunbrig	ALTA-L1 ALK陽性非小細胞肺癌（フロントライン適応）中間解析（H1） 非小細胞肺癌（セカンドライン適応）欧州承認（H2）
	Cabozantinib	肝細胞がん 日本ピボタル試験開始（H2）
	Iclusig	フィラデルフィア染色体陽性の急性リンパ性白血病 グローバルピボタル試験開始（H1）
	Ninlaro	初発の多発性骨髄腫 初回の中間解析（H1） 自家造血幹細胞移植後の初発の多発性骨髄腫の維持療法 初回の中間解析（H1）
	Pevonedistat	高リスク骨髄異形成症候群/慢性骨髄単球性白血病/低プラスト急性骨髄性白血病 Ph-2最終解析（H2）
	TAK-788	非小細胞肺癌 申請が可能なPh-2試験の患者への投与開始（H2）
消化器系疾患	Entyvio	クローン病 日本申請（H1） 潰瘍性大腸炎 日本承認（H1） 潰瘍性大腸炎 皮下投与製剤申請（H2）
	TAK-954	経腸栄養不耐性 Ph-2b試験開始（H1） 術後麻痺性イレウス Ph-2b試験開始（H2）
	TAK-906	胃不全麻痺のPh-2b試験開始（H2）
ニューロサイエンス (神経精神疾患)	Trintellix	大うつ病 日本申請（H2） 治療に起因する性機能障害（TESD）の米国添付文書のアップデート（H2）
	TAK-925	ナルコレプシー患者におけるブルーフォブコンセプト（H2）
ワクチン	TAK-003	デングウイルスワクチン Ph-3主要解析（H2）
	TAK-214	ノロウイルスワクチン Ph-2b最終解析(成人)（H1）

中間解析を実施、IDMCの推奨に基づき二重盲検下で2回目の中間解析まで試験を継続



中期的な優先事項 : Boost Profitability

Grow
Portfolio

Strengthen
Pipeline

Boost
Profitability

中期的な優先事項

- 実質的なCore Earningsの売上収益比率を年100-200bps向上
- Global Opex Initiative（グローバル経費削減イニシアチブ）の推進
- 遊休資産の現金化と収益力の向上をともなう成長への投資



コスタ・サルウコス : バックグラウンド

- 4月1日に当社CFOおよびタケダ・エグゼクティブ・チーム（TET）メンバーに就任
- 2015年5月、EUCAN（ヨーロッパ・カナダ）ビジネスユニットのCFOとして入社
- 医薬品セクターで18年間の経験を有する
アラガン社とメルク社において、アジア・太平洋、欧州、アフリカ、中東地域の100ヶ国以上におよぶ財務の責任者として従事
- アジアでのビジネス経験が豊富、韓国（5年）とシンガポール（2年）に居住し、勤務した経験を持つ
- オーストラリア シドニー生まれ





2017年度の好業績は優れた実行力を反映

● 財務ベースの力強い実績、EPSは+62.7%の伸長

- 売上収益は+2.2%の増収、実質的な成長+5.5%と為替による増収影響+2.5ppが事業等の売却による減収影響△5.8ppを吸収
- 営業利益は+55.1%の増益、うち、90%は力強いCore Earningsの増益が貢献
- 実効税率は、繰延税金負債の再評価により前年度の19.4%から14.0%に低下

● 実質ベースも業界有数の実績、EPSは+44.8%の伸長

- 実質的な売上収益は+5.5%の増収、成長ドライバーは+12.8%の増収
- 実質的なCore Earningsは+40.2%の増益、対売上収益比率は420bps向上
- グローバル経費削減イニシアチブは目標を上回る

● 健全な財務状態で2017年度を終了

- 営業フリー・キャッシュ・フローは+52.9%と大幅に増加して2,429億円
- 純有利子負債／EBITDA倍率は2016年度末の2.7倍から2017年度末は1.8倍まで低下



財務ベースのEPSはCore Earningsの力強い成長を反映し 62.7%伸長

2017年度 損益計算書（財務ベース）

(億円)	2016年度	2017年度	対前年度	
売上収益	17,321	17,705	+385	+2.2%
Core Earnings	2,451	3,225	+774	+31.6%
営業利益	1,559	2,418	+859	+55.1%
当期利益	1,149	1,869	+719	+62.6%
EPS	147円	239円	+92円	+62.7%
ROE	6.0%	9.6%		+3.6pp
円/ドル	109円	111円	+2円	+2.0%
円/ユーロ	120円	129円	+10円	+8.2%



実質的なCore Earningsは売上収益の力強い増収と利益率の大幅な向上を反映し40.2%増益

2017年度 損益計算書（実質ベース）

（億円）	2016年度	2017年度	対前年度	
売上収益	16,221	17,111	+889	+5.5%
売上総利益	11,208	12,293	+1,085	+9.7%
対売上収益比率	69.1%	71.8%		+2.8pp
営業経費	△9,163	△9,426	△263	△2.9%
対売上収益比率	56.5%	55.1%		+1.4pp
Core Earnings	2,044	2,867	+823	+40.2%
対売上収益比率	12.6%	16.8%		+4.2pp
Core当期利益	1,503	2,175	+673	+44.8%
Core EPS	192円	279円	+86円	+44.8%



営業フリー・キャッシュ・フローは+52.9%と大幅に増加して2,429億円

2017年度 キャッシュフロー計算書

（億円）	2016年度	2017年度	対前年度	
当期利益	1,155	1,867	+712	+61.6%
減価償却費、償却費及び減損損失	2,228	1,957	△271	
運転資本増減（△は増加）	91	199	+108	
法人税等の支払額	△408	△299	+109	
その他*	△545	△214	+332	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,521	3,511	+989	+39.2%
有形固定資産の取得と売却**	△587	△636	△49	
無形資産の取得***	△347	△446	△99	
営業フリー・キャッシュ・フロー	1,588	2,429	+841	+52.9%

- ・ ノン・コア資産の売却により、さらに1,644億円のキャッシュを創出
- ・ 純有利子負債/EBITDA倍率は2016年度末の2.7倍から1.8倍まで低下

次の項目は上記のキャッシュ・フロー計算書から控除しています。

*（2016年度）ユニファーム社との取引にかかるエスクロー口座への支払い408億円およびアクトス訴訟和解にかかる保険金収入500億円

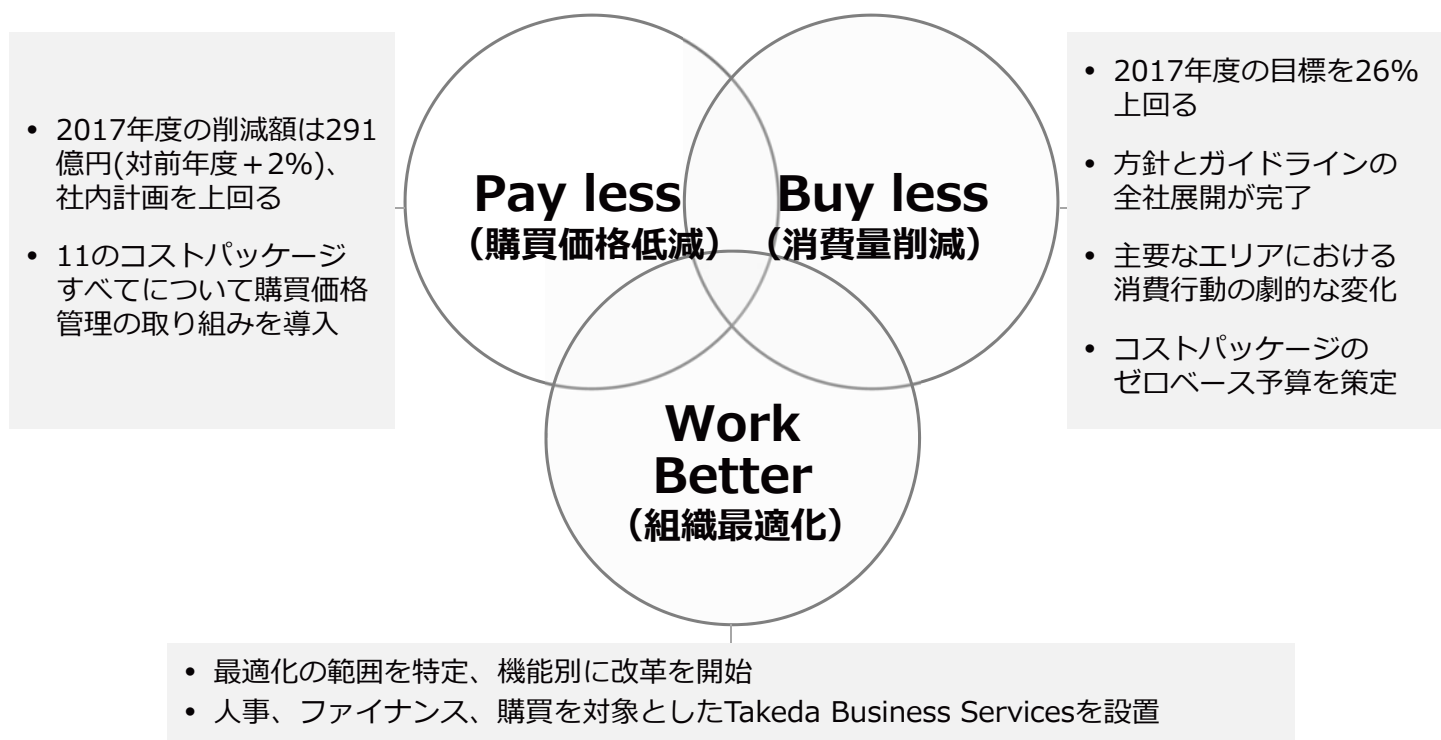
（2017年度）エスクロー口座からユニファーム社への支払いに伴い発生した収入268億円（投資活動CFの同額の支出も控除）

**（2017年度）不動産の売却収入319億円

***（2016年度）将来ロイヤリティ支払いにかかる権利を買い戻した支払い157億円（2017年度）将来ロイヤリティ支払いにかかる権利を買い戻した支払い166億円



グローバル経費削減イニシアチブは目標を上回る



2018年度の実質的な売上収益は、ベルケイドの減収影響があるものの引き続き成長

売上収益の成長に 対する影響ポイント

ビジネス・モメンタム	+5-6%
ベルケイドの独占期間満了	△3.5pp
ポートフォリオの変化	△0.9pp
取得	+0.3pp
返還*	△1.2pp
実質的な売上収益の成長	1桁台前半

- 米国のベルケイドについては、治療上の同等性が認められない、静脈投与と皮下投与が可能な競合品一つが、2018年9月に市場に追加参入してくることを業績予想上の前提としている。

〔グローバル売上収益：2017年度 1,296億円、2018年度 755億円〕**

- より厳しい価格環境（特に日本）

* 仕入販売契約の終了：日本のピオフェルミン（OTC製品）と新興国におけるその他製品
** 2018年度の計画レートを適用した同一為替換算ベース



実質的なCore Earningsの対売上収益比率は2年間にわたり500bps以上向上

	実質的なCore Earningsの 対売上収益比率（対前年度）
2017年度	+420bps
2018年度	+100-200bps
2年間の利益率の向上	+520-620bps

- ・ 製品構成が引き続き改善（2018年度はベルケイドの影響によりペースは緩やかに）
- ・ グローバル経費削減イニシアチブが利益率の向上に貢献



グローバル経費削減イニシアチブは将来にわたる利益率の向上に貢献

2018年度のグローバル経費削減イニシアチブの優先事項

Buy Less / Pay Less
(ゼロベース予算策定: "ZBB"
Zero Based Budgeting)

- ・ 11のコストパッケージを対象とした2順目のZBB
- 1,700億円を対象
- ・ 透明性を高めたさらなる購買価格の低減
- ・ 管理・監視機能の導入

Work Better
(組織最適化と"TBS"
Takeda Business Services)

- ・ 機能別改革の推進
- 人事、ファイナンス、購買
- ・ 成功要因としてのTBS
- 利益率の向上に貢献
- プロセスの簡素化
- スケールメリットの活用



2018年度はベルケイドの減少影響があるものの、 売上・利益の成長モメンタムを維持

	2018年度 マネジメントガイダンス (成長率 %)
実質的な売上収益	1桁台前半
実質的なCore Earnings	1 桁台後半
実質的なCore EPS	10%台前半
1株当たり年間配当金	180円 (如何なる事業活動の可能性に関わらず)



2018年度は実質的なビジネスの強さが一時的収益の減少 による影響を緩和

2018年度 公表予想（財務ベース）

(億円)	2017年度 実績	2018年度 公表予想	増減		増減率に対する為替と事業等の売却による影響
売上収益	17,705	17,370	△335	△1.9%	売上収益 △1.9% ・ 為替影響 約△1.0pp ・ 事業等の売却影響 約△2.0pp
研究開発費	△3,254	△3,110	+144	+4.4%	Core Earnings △4.0% ・ 為替影響 約△3.0pp ・ 事業等の売却影響 約△7.0pp
Core Earnings	3,225	3,095	△130	△4.0%	
無形資産償却費および減損損失	△1,221	△1,080	+141	+11.6%	
その他の営業収益／費用*	414	△5	△419	△101.2%	
営業利益	2,418	2,010	△408	△16.9%	主要項目（億円）
税引前当期利益	2,172	1,830	△342	△15.7%	2017年度 2018年度
当期利益	1,869	1,390	△479	△25.6%	製品等に係る無形資産償却費 △1,261 △960
EPS	239 円	178 円	△61 円	△25.7%	製品等に係る減損損失 40 △120
円/ドル	111 円	108 円	△3 円	△2.5%	その他の営業収益 1,694 650
円/ユーロ	129 円	133 円	+4 円	+2.9%	・ 和光純薬の株式売却益 1,063 —
					・ 不動産売却益 188 555
					・ 長期収載品の事業譲渡益 275 45
					その他の営業費用 △1,266 △655
					・ 事業構造再編費用 △447 △405
					・ 為替換算調整の実現に係る損失 △417 —

* 非正常項目を含む

本公表予想には、当社によるShire社買収の提案に関連する業績影響の予想値を含めておりません。
本件にかかる合理的な業績影響の予想値が確定次第、当該予想値を含めた業績予想をお知らせいたします。



2018年度末までのノン・コア資産の売却目標を上方修正

	2017年度の 進捗	2017年5月の ガイダンス	(億円)
不動産の売却	393	600	
投資有価証券の売却	406	700	
合計	799	1,300	2018年度末 までの 修正目標 1,900

不動産：2018年度には旧東京本社の売却により445億円*

投資有価証券：2018年度以降、損益計算書に売却益の計上なし（IFRS第9号）

* 譲渡価額495億円、うち50億円は2017年度の収入



強固で厳格な投資基準とともに明確な配当へのコミットメントを維持

資本配分に関する優先順位

1. 自社研究開発および新製品上市に対する投資
2. 重要な株主還元策としての配当
3. 投資適格の格付け水準の維持
4. 規律ある領域を絞った提携と買収

配当へのコミットメント

株主還元を重視し、配当を重要な還元策として位置付け



戦略的フォーカスと優れた実行力が力強い実績をもたらす

- **2017年度実績は優れた実行力を反映**

財務ベース: 売上収益 +2.2%、営業利益 +55.1%、EPS +62.7%

実質ベース: 売上収益 +5.5%、Core Earnings +40.2%、Core EPS +44.8%
Core Earningsの対売上収益比率の向上 +420bps

- **2018年度は力強い実質的なビジネスがベルケイドの減少影響を吸収**

- 実質的な売上収益は△4.4ppのマイナス影響があるものの1桁台前半の成長率
- 実質的なCore Earningsの対売上収益比率は+100-200bpsの範囲の下端で向上
- 実質的なCore EPSの成長率は10%台前半

- **収益力の向上をともなう持続的な成長の見通しに自信**



CFOのコミットメント

- 戦略的な優先事項である「利益率の向上」へのひたむきな取り組み
- グローバル経費削減イニシアチブの遂行
- 実質的なCore Earningsの対売上収益比率100-200bps／年の向上
- 現行の配当方針を支持確認
- 資本配分の優先順位を支持確認、投資適格の格付け水準を堅持
- 厳格な財務規律を遵守
- 効果的で透明性あるIRコミュニケーションの実施



Appendix

武田薬品工業株式会社



Coreと「実質的な成長」の定義

Coreの概念

Core Earningsは、売上総利益から、販売費及び一般管理費、および、研究開発費を控除して算出します。さらに、non-coreの性質で金額の大きい影響を調整します。ここには、自然災害の影響、企業買収に係る会計処理の影響、主な訴訟費用、事業構造再編費用、政府による法令変更の影響などが含まれます。説明責任及び信頼性を保証するため、これらを控除する際の金額基準は「10億円以上」と高く設定しています。

Core EPSの算出にあたっては、Core Earningsから、営業利益以下の各科目のうち、non-coreの性質で金額の大きい影響（10億円以上）を調整します。ここには、条件付対価に係る公正価値変動影響などが含まれます。さらに、これらにかかる税金影響に加え、上記のCore Earnings調整にかかる税金影響を合わせて調整します。

実質的な成長

実質的な成長とは、持続的な事業活動のパフォーマンスを実質的に把握する目的で、当期と前年同期（四半期あるいは年間）の業績を共通の基準で比較するものです。このため、各期間を共通の為替レートで換算し、また、事業等の売却影響を調整します。

共通の為替レート：グローバルに事業を展開している当社の業績は、様々な通貨の為替レート変動による影響を受けます。従って、異なる期間の業績比較は、換算に使用する為替レートの違いにより歪みが生じることがあります。このため、為替変動による影響を排除して業績の比較を容易にし、実質的な成長を把握するため、共通の為替レート（CER: Constant Exchange Rates）を異なる期間それぞれに適用します。これには通常、当期の計画レートを使用します。



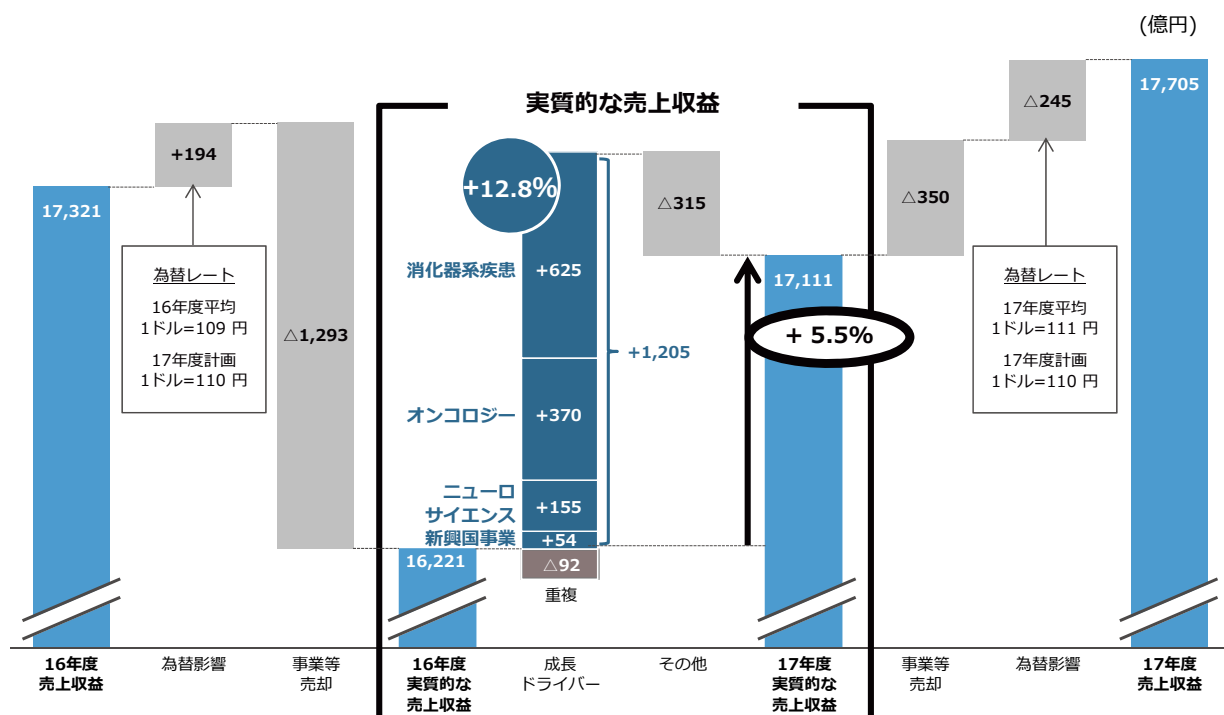
成長ドライバーの実質的な売上収益

(億円)	2016年度	2017年度	対前年度	
エンティビオ	1,447	1,966	+519	+35.9%
タケキャブ	341	551	+210	+61.7%
デクスラント	635	649	+14	+2.2%
アミティーザ	341	335	△7	△2.0%
ランソプラゾール	395	341	△53	△13.5%
消化器系疾患*	3,160	3,843	+683	+21.6%
アイクルシグ	28	229	+201	NA
ニンラーロ	296	457	+161	+54.2%
アドセトリス	306	377	+71	+23.2%
ALUNBRIG	—	28	+28	NA
ベクティビックス	188	189	+2	+0.9%
リュープロレリン	1,147	1,124	△23	△2.0%
ベルケイド	1,391	1,358	△33	△2.4%
オンコロジー	3,356	3,762	+406	+12.1%
トリンテリックス	323	478	+155	+47.9%
レミニール	174	178	+4	+2.6%
コパキソン	6	9	+2	+33.8%
ロゼレム	183	176	△7	△3.8%
ニューロサイエンス	686	841	+155	+22.6%

* パントプラゾールは消化器系疾患の売上収益に含めていません。パントプラゾールは新興国における主力製品であることから4つ目の成長ドライバーである「新興国事業」の売上収益に含めています。



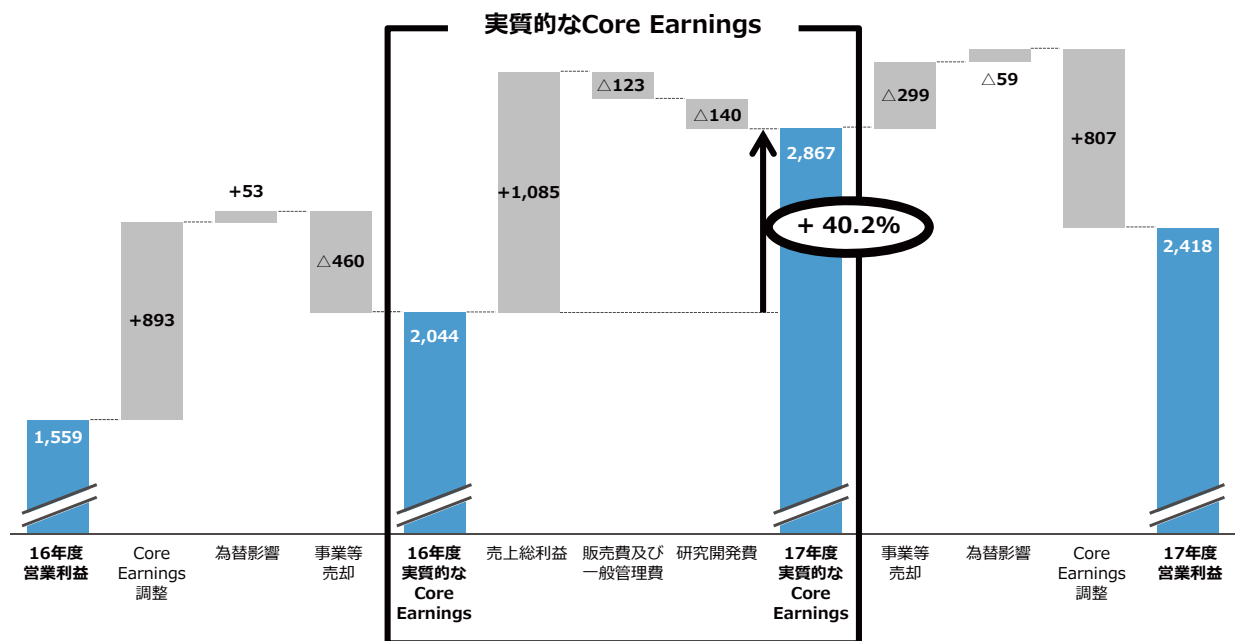
実質的な売上収益は成長ドライバーが牽引し+5.5%の成長





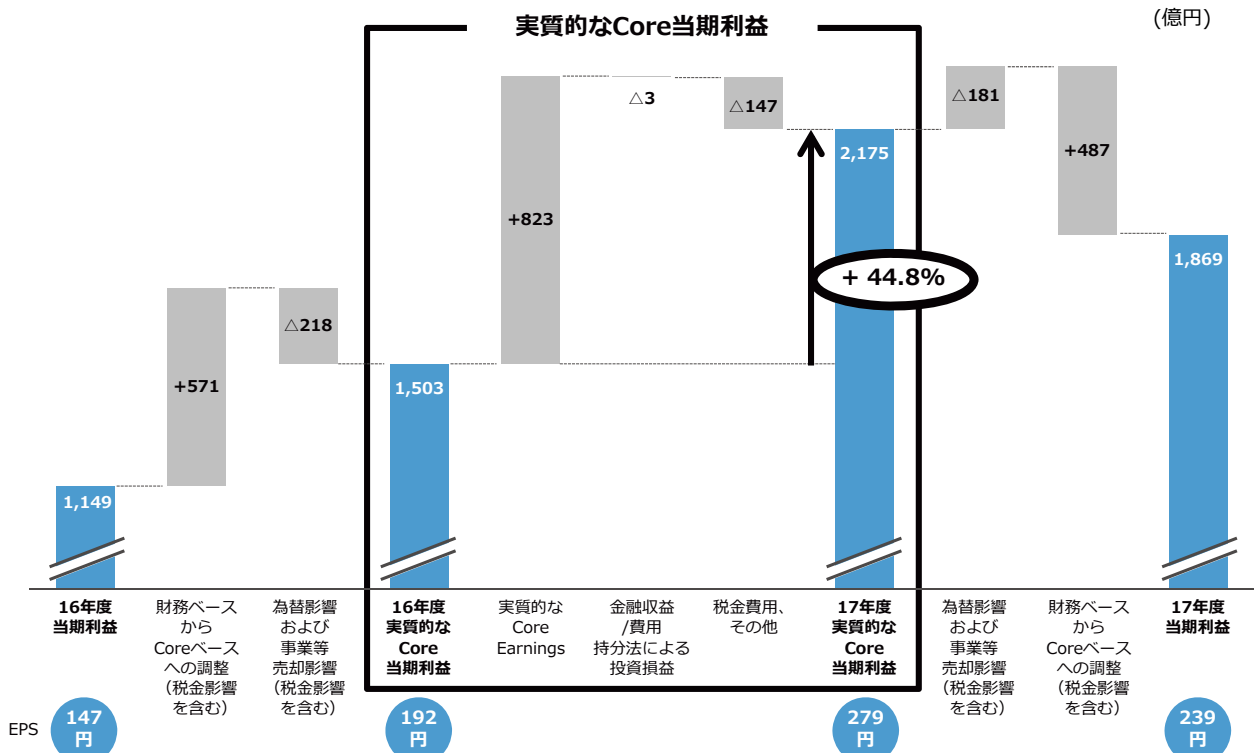
実質的なCore Earningsは数量増と製品構成改善で+40.2%

(億円)



実質的なCore当期利益/EPSはCEの増益が貢献し+44.8%

(億円)





損益計算書（財務ベース）2017年度年間

(億円)	2016年度	2017年度	対前年度	
売上収益	17,321	17,705	+385	+ 2.2%
売上総利益	11,733	12,746	+1,013	+ 8.6%
対売上収益比率	67.7%	72.0%		+4.3pp
販売費及び一般管理費	△6,191	△6,281	△90	△ 1.5%
研究開発費	△3,123	△3,254	△131	△ 4.2%
非正常項目	32	14		
Core Earnings	2,451	3,225	+774	+ 31.6%
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△1,567	△1,221	+346	+ 22.1%
その他の営業収益/費用	707	429	△278	△ 39.3%
非正常項目（振り戻し）	△32	△14		
営業利益	1,559	2,418	+859	+ 55.1%
対売上収益比率	9.0%	13.7%		+4.7pp
金融収益/費用	△110	76	+186	NA
持分法による投資損益	△15	△322	△307	NA
税引前当期利益	1,433	2,172	+739	+ 51.5%
法人所得税費用	△278	△305	△27	△ 9.6%
非支配持分	△6	2	+8	NA
当期利益	1,149	1,869	+719	+ 62.6%
EPS	147 円	239 円	+92 円	+ 62.7%



損益計算書（財務ベース）2017年度第4四半期

(億円)	2016年度 第4四半期	2017年度 第4四半期	対前年同期	
売上収益	4,162	4,010	△152	△ 3.7%
売上総利益	2,818	2,901	+83	+ 2.9%
対売上収益比率	67.7%	72.3%		+4.6pp
販売費及び一般管理費	△1,797	△1,718	+79	+ 4.4%
研究開発費	△885	△888	△3	△ 0.3%
非正常項目	32	3		
Core Earnings	168	298	+130	+ 77.4%
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△546	△358	+188	+ 34.4%
その他の営業収益/費用	△206	△742	△536	NA
非正常項目（振り戻し）	△32	△3		
営業利益	△616	△805	△189	△ 30.8%
対売上収益比率	△ 14.8%	△ 20.1%		△5.3pp
金融収益/費用	△27	87	+114	NA
持分法による投資損益	△12	11	+23	NA
税引前当期利益	△655	△707	△52	△ 8.0%
法人所得税費用	130	167	+38	+ 29.0%
非支配持分	18	△0	△18	NA
当期利益	△ 507	△ 540	△33	△ 6.5%
EPS	△ 65 円	△ 69 円	△4 円	△ 6.4%



財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整

(億円)	第4四半期		対前年同期		年間		対前年度	
	2016年度	2017年度			2016年度	2017年度		
売上収益	4,162	4,010	△152	△ 3.7%	17,321	17,705	+385	+ 2.2%
為替影響*	△63	△62		△0.0pp	194	△245		△2.5pp
為替影響*除き売上収益	4,099	3,948	△151	△ 3.7%	17,514	17,460	△54	△ 0.3%
事業等の売却影響**	△281	△67		+5.3pp	△1,293	△350		+5.8pp
和光純薬	△207	—			△791	—		
テバJVへの長期収載品	△46	△11			△242	△240		
呼吸器系疾患領域事業	△9	0			△62	△18		
コントレブ	△16	—			△111	—		
TAK-935	—	—			—	△35		
TAK-385 (relugolix)	—	—			△64	—		
その他	△3	△56			△23	△56		
実質的な売上収益	3,818	3,880	+62	+ 1.6%	16,221	17,111	+889	+ 5.5%

* 為替影響は、前年度および当年度に、17年度の計画レート (1ドル=110円, 1ユーロ=120円)を適用して算出しています。

** 事業等の売却影響の前年度には、主に和光純薬の前年度の売上収益と2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる前年度の売上を含めています。

また、当年度には、主に当該長期収載品にかかる当年度の一時的な売却益などを含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。



営業利益から実質的なCore Earningsへの調整

(億円)	第4四半期		対前年同期		年間		対前年度	
	2016年度	2017年度			2016年度	2017年度		
営業利益	△616	△805	△189	△ 30.8%	1,559	2,418	+859	+ 55.1%
無形資産の償却費および減損損失	546	358	△188		1,567	1,221	△346	
その他の営業収益/費用	206	742	+536		△707	△429	+278	
非正常項目	32	3	△29		32	14	△18	
Core Earnings	168	298	+130	+ 77.4%	2,451	3,225	+774	+ 31.6%
為替影響*	△7	△13	△6		53	△59	△112	
事業等の売却影響**	△94	△44	+50		△460	△299	+161	
和光純薬	△18	—	+18		△72	—	+72	
テバJVへの長期収載品	△44	△9	+35		△233	△212	+21	
呼吸器系疾患領域事業	△16	0	+16		△38	△17	+21	
コントレブ	△16	—	+16		△45	—	+45	
TAK-935	—	—	—		—	△35	△35	
TAK-385 (relugolix)	—	—	—		△64	—	+64	
その他	0	△36	△36		△8	△36	△27	
実質的な Core Earnings	66	241	+174	NA	2,044	2,867	+823	+ 40.2%

* 為替影響は、前年度および当年度に、17年度の計画レート (1ドル=110円, 1ユーロ=120円)を適用して算出しています。

** 事業等の売却影響の前年度には、主に和光純薬の前年度の営業利益と2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる前年度の利益を含めています。

また、当年度には、主に当該長期収載品にかかる当年度の一時的な売却益などを含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。



当期利益から実質的なCore当期利益への調整

(億円)	第4四半期		対前年同期		年間		対前年度	
	2016年度	2017年度			2016年度	2017年度		
当期利益	△507	△540	△33	△ 6.5%	1,149	1,869	+719	+ 62.6%
EPS	△ 65 円	△ 69 円	△4 円	△ 6.4%	147 円	239 円	+ 92 円	+ 62.7%
無形資産の償却費および減損損失	329	249	△80		1,012	862	△150	
その他の営業収益/費用	86	569	+483		△531	△217	+314	
投資有価証券の売却益	△19	△99	△80		△19	△209	△190	
その他の非定常項目の調整	41	3	△38		109	52	△57	
Core当期利益	△71	182	+253	NA	1,721	2,356	+636	+ 37.0%
Core EPS	- 9 円	23 円	+32 円	NA	220 円	302 円	82 円	+ 37.0%
為替影響*	27	2	△25		100	27	△74	
事業等の売却影響**	△62	△31	+31		△318	△208	+111	
実質的なCore当期利益	△106	153	+259	NA	1,503	2,175	+673	+ 44.8%
実質的なCore EPS	△ 14 円	20 円	+33 円	NA	192 円	279 円	+ 86 円	+ 44.8%

* 為替影響は、前年度および当年度に、17年度の計画レート (1ドル=110円, 1ユーロ=120円)を適用して算出しています。

** 事業等の売却影響の前年度には、主に和光純薬の前年度の当期利益と2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる前年度の利益を含めています。

また、当年度には、主に当該長期収載品にかかる当年度の一時的な売却益などを含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。



損益計算書（実質ベース）2017年度年間

(億円)	2016年度	2017年度	対前年度	
実質的な売上収益	16,221	17,111	+889	+ 5.5%
実質的な売上総利益	11,208	12,293	+1,085	+ 9.7%
対売上収益比率	69.1%	71.8%		+2.8pp
販売費及び一般管理費	△6,078	△6,201	△123	△ 2.0%
研究開発費	△3,085	△3,225	△140	△ 4.5%
実質的なCore Earnings	2,044	2,867	+823	+ 40.2%
対売上収益比率	12.6%	16.8%		+4.2pp
金融収益/費用	△61	△79	△18	△ 29.9%
持分法による投資損益	62	77	+15	+ 24.6%
実質的なCore税引前当期利益	2,045	2,865	+820	+ 40.1%
法人所得税費用	△532	△691	△159	△ 29.9%
非支配持分	△11	2	+12	NA
実質的なCore当期利益	1,503	2,175	+673	+ 44.8%
実質的なCore EPS	192 円	279 円	+86 円	+ 44.8%



損益計算書（実質ベース）2017年度第4四半期

（億円）	2016年度 第4四半期	2017年度 第4四半期	対前年同期	
実質的な売上収益	3,818	3,880	+62	+ 1.6%
実質的な売上総利益	2,616	2,821	+205	+ 7.8%
対売上収益比率	68.5%	72.7%		+4.2pp
販売費及び一般管理費	△1,696	△1,696	+0	+ 0.0%
研究開発費	△854	△885	△31	△ 3.6%
実質的なCore Earnings	66	241	+174	NA
対売上収益比率	1.7%	6.2%		+4.5pp
金融収益/費用	△26	△21	+6	+ 21.7%
持分法による投資損益	△2	20	+22	NA
実質的なCore税引前当期利益	38	240	+202	NA
法人所得税費用	△142	△87	+55	+ 38.7%
非支配持分	△2	△0	+2	+ 80.1%
実質的なCore当期利益	△ 106	153	+259	NA
実質的なCore EPS	△ 14 円	20 円	+33 円	NA



テバ社との合併会社にかかる会計・損益影響

2017年度の実質的な税引前当期利益影響：154億円

- ・ 事業譲渡・製品売却にかかる実質的な持分法投資損益：74億円
- ・ 製品供給・流通取引にかかる実質的な利益：81億円

（億円）	事業譲渡・製品売却		製品供給・流通取引		合計	
	財務 ベース	実質 ベース	財務 ベース	実質 ベース	財務 ベース	実質 ベース
売上収益	156		179	137	335	137
長期収載品7製品の売却*	145				145	
長期収載品7製品にかかる繰延収益*	11				11	
製品供給・流通にかかる売上収益			179	137	179	137
Core Earnings	156		114	81	270	81
その他の営業収益	275				275	
長期収載品の繰延事業譲渡益の実現額（償却費部分）**	58				58	
長期収載品の繰延事業譲渡益の実現額（減損損失部分）**	217				217	
持分法による投資損益	△326	74			△326	74
長期収載品にかかる無形資産償却費	△43				△43	
減損損失	△357				△357	
通常の事業活動	74	74			74	74
税引前当期利益	105	74	114	81	218	154

* 長期収載品7製品の売却益合計285億円のうち、51%（145億円）は2017年5月に売上収益認識、残りの49%は12年にわたり繰延認識。

** 2016年4月に長期収載品事業の事業譲渡益の51%（1,029億円）をその他の営業収益に計上、残りの49%は15年にわたり繰延認識。



無形資産償却費および減損損失の見通し

(億円)	2017年度	2018年度	将来
無形資産の償却費	△1,261	△960	
ナイコメッド	△393	△394	資産の大半を2026年度までに償却
ミレニウム	△397	△24	ベルケイドは2017年度中に償却終了
アリアド	△197	△192	Alunbrigのファーストライン承認取得後、 約130億円増加
減損損失	40	△120	
無形資産償却費および減損損失	△1,221	△1,080	



力強いキャッシュの創出により純有利子負債/EBITDA倍率は 前年度末の2.7倍から当年度末は1.8倍まで急速に低下

2017年度 キャッシュの使途

(億円)	2016年度	2017年度	対前年度	
営業フリー・キャッシュ・フロー	1,588	2,429	+841	+52.9%
不動産の売却*	15	393	1,644	
和光純薬株式売却	-	845		
その他投資有価証券売却**	52	406		
拘束性預金の預入（タイジェニクス社）	-	△718		
長期借入金の返済と社債の償還	△1,918	△1,400		
配当金	△1,417	△1,419		
その他	359	△786		
現金の増減額（△は減少）	△1,320	△249	+1,070	+81.1%
有利子負債	△11,449	△9,857	+1,592	+13.9%
純有利子負債	△8,243	△6,911	+1,332	+16.2%
有利子負債/EBITDA倍率	3.7 x	2.6 x	△1.1	
純有利子負債/EBITDA倍率	2.7 x	1.8 x	△0.8	

* 武田薬品工業株式会社とその不動産子会社による不動産の売却

** 武田薬品工業株式会社による株式の売却



2018年度マネジメントガイダンスの2017年度ベースライン

(億円)	2017年度
売上収益	17,705
為替影響	△375
事業等の売却影響	△415
実質的な売上収益	16,915
営業利益	2,418
無形資産償却費および減損損失	+1,221
その他の営業収益	△1,694
その他の営業費用	+1,266
非定常項目	+14
Core Earnings	3,225
為替影響	△122
事業等の売却影響	△262
実質的なCore Earnings	2,841
対売上収益比率	16.8%
実質的なCore EPS (円)	270

(注) 現時点の前提に基づいています。2018年度の発生事実によっては、2017年度ベースラインを再計算する可能性があります。
実質的な成長のマネジメントガイダンスは、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート (1ドル=105円, 1ユーロ=130円)を適用して算出しています。



略語用語集

AD	Alzheimer's disease アルツハイマー病	GnRH	gonadotropin-releasing hormone ゴナドトロピン放出ホルモン	NERD	non-erosive reflux disease 非びらん性胃食道逆流症
ADC	antibody drug conjugate 抗体薬物複合体	GvHD	graft versus host disease 移植片対宿主病	NSCLC	non-small cell lung cancer 非小細胞肺癌
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder 注意欠陥多動性障害	H2H	head to head 直接比較	PARP	poly (ADP-ribose) polymerase ポリADPリボースポリメラーゼ
ALK	anaplastic lymphoma kinase 未分化リンパ腫キナーゼ	HER2	human epidermal growth factor receptor 2 ヒト上皮成長因子受容体2	Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病
ALS	amyotrophic lateral sclerosis 筋萎縮性側索硬化症	HL	Hodgkin's lymphoma ホジキンリンパ腫	R/R	relapsed/refractory 再発/難治
ARD	acid-related diseases 酸関連疾患	HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes 高リスク骨髄異形成症候群	RA	rheumatoid arthritis リウマチ性関節炎
BTK	Bruton's tyrosine kinase ブルトン型チロシンキナーゼ	IBD	inflammatory bowel disease 炎症性腸疾患	RCC	renal cell cancer 腎細胞がん
CD	Crohn's disease クローン病	IO	immuno-oncology がん免疫治療	SCT	stem cell transplant 幹細胞移植
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia 統合失調症に伴う認知障害	iPSC	induced pluripotent stem cells 人工多能性幹細胞	SCZ	schizophrenia 統合失調症
CML	chronic myeloid leukemia 慢性骨髄性白血病	LBD	Lewy Body Dementia レビー小体病	SLE	systemic lupus erythematosus 全身性エリテマトーデス
CMML	chronic myelomonocytic leukemia 慢性骨髄単球性白血病	LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia 低ブラスト急性骨髄性白血病	SR	steroid refractory ステロイド抵抗性
CNS	central nervous system 中枢神経系	mAb	monoclonal antibodies モノクローナル抗体	SR-GvHD	steroid refractory acute graft vs host disease ステロイド抵抗性急性移植片対宿主病
CRL	complete response letter 審査完了報告通知	MAOB	monoamine oxidase B モノアミン酸化酵素B	SubQ	subcutaneous formulation 皮下投与製剤
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma 皮膚T細胞性リンパ腫	MCL	mantle cell lymphoma マントル細胞リンパ腫	SYK	spleen tyrosine kinase 脾臓チロシンキナーゼ
DAAO	D-amino acid oxidase D-アミノ酸化酵素	MDD	major depressive disorder 大うつ病性障害	TESD	treatment emergent sexual dysfunction 治療に起因する性機能障害
DLBCL	diffuse large B cell lymphoma びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	MM	multiple myeloma 多発性骨髄腫	TRD	treatment resistant depression 治療抵抗性うつ病
EGFR	epidermal growth factor receptor 上皮増殖因子受容体	MTCL	mature T-cell lymphoma 成熟型T細胞リンパ腫	UC	ulcerative colitis 潰瘍性大腸炎
FL ALK+	front line ALK-positive 未分化リンパ腫キナーゼ 陽性 (フロントライン適応)	NAE	NEDD8 activating enzyme NEDD8活性化酵素		
FL HL	front line Hodgkin's lymphoma ホジキンリンパ腫 (フロントライン適応)	NDA	new drug application 新薬承認申請		
GI	gastrointestinal 胃腸	Neg	negative 陰性		

Better Health, Brighter Future



武田薬品工業株式会社